

ひょうごの福祉

2023

3-4

No.846

つながりで笑顔輝く 共生のまちづくり

特集

地域共生社会の実現に向けた
包括的な支援体制とは

CONTENTS



- 笑顔輝く 共生のまちづくり
- あなたのまちの社協活動
- キラリ ★ 社会福祉法人
- セルフヘルプグループのリアル
- 私の物語
- 県社協TOPICS



ふくみ 福美ちゃん



ひょうた 兵太くん



手軽に読める
「ひょうごの福祉」WEBサイト



この機関紙は赤い羽根共同募金
配分金により発行しています。

地域共生社会の実現に向けた 包括的な支援体制とは

平成29年の改正社会福祉法で定められた「包括的な支援体制の整備」により、高齢者や障害者といった対象別の福祉行政の運営は転換を求められました。施行から5年が経過しようとする今もその体制整備に向けた模索が続きます。

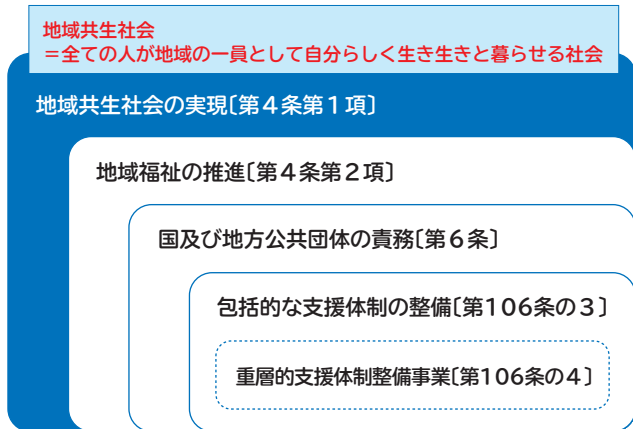
本特集では、地域福祉推進の観点とともに、取り組み事例も交えながら包括的な支援体制とは何か、体制整備を進める上でのポイントは何かを考えます。

写真上から

包括的な支援体制に向けた分野横断の合同会議（芦屋市）
 どんな人でも安心して集える地域の居場所「まごのて」（芦屋市）
 共に体験することでお互いの心の距離が少しずつ縮まる。当事者の居場所「みんなのいえ」（赤穂市）
 「ひきこもり」と「ピザづくり」をテーマに誰もが自由に集まれる機会（淡路市）



【図表1】社会福祉法における地域共生社会、施策、事業の位置づけ



※厚生労働省の図に基づき一部加工・追記

包括的な支援体制が
求められる背景と
法律上の位置づけ

福祉制度の充実とともに、「一人暮らしの祖母に介護が必要になった」「外出時の移動をサポートしてほしい」など、自ら相談したいと思っている人には窓口への相談がしやすくなりました。ただ問題は、さまざまな理由で困りごとを寄せずに、課題が深刻化・複雑化し、孤立を深めている人たちへの対応です。また、高齢者や障害者、児童、生活困窮者など対象別の制度をベースとした縦割りの対応では、機関同士の連携や複合的ニーズへの対応に課題がありました。

これらを背景に、平成29年と令和2年の改正社会福祉法では、「地域共生社会の実現」に向けて、「地域福祉の推進」を図りながら制度の狭間や複合的なニーズに対応できるよう、地域づくりを基盤にした「包括的な支援体制の整備」を行政の責務で進めるとされました。なお、令和2年に追加された「重層的支援体制整備事業」（以下、「重層事業」）は、包括的な支援体制づくりの手段の一つ（任意事業）として制度化されたものです【図表1】。

包括的な支援体制とは何か

包括的な支援体制は、【図表2】に示すように、身近な圏域での「住民の地域福祉活動への参加を促す環境づくり」「さまざまな地域生活課題の相談に応じる体制づくり」、市町域での「多機関協働による支援体制づくり」という三本柱で構成され、対象にとらわれない横断的な支援を目指すものです。

地域共生社会の実現に向けて重要なのは、一人一人の存在が認められ、役割を發揮できる場や機会を地域につくることです。これは制度化だけでつくられるものではなく、生活課題の早期発見や、社会的孤立を予防し社会関係を広げることを目指した地域住民と専門職の協働が不可欠です。そこで、包括的な支援体制づくりのイメージを深めるための取り組み事例を紹介します。

【図表2】社会福祉法上の包括的な支援体制の構成要素

圏域	構成要素	活動や仕組みの例	法の位置づけ
住民に身近な圏域	住民の地域福祉活動への参加を促す環境づくり	サロン等、住民の交流の機会づくり	第106条の3第1項第1号
	さまざまな地域生活課題の相談に応じる体制づくり	住民同士の見守り、地域での見守り等の話し合いへの専門職の参加	同第2号
市町域	多機関協働による支援体制づくり	地域ケア推進会議、セーフティネット会議	同第3号

※厚生労働省「市町村職員を対象とするセミナー（令和4年6月）」の資料を参考に作成

包括的な支援体制づくりの実際

芦屋市での取り組み

芦屋市の包括的な支援体制づくりは、地域包括支援センターが抱えていた多問題・複合支援のニーズがある世帯に向けた支援の検討から始まりました。「多重債務の解決に必要な法律的な知識がないため、どう支援したら

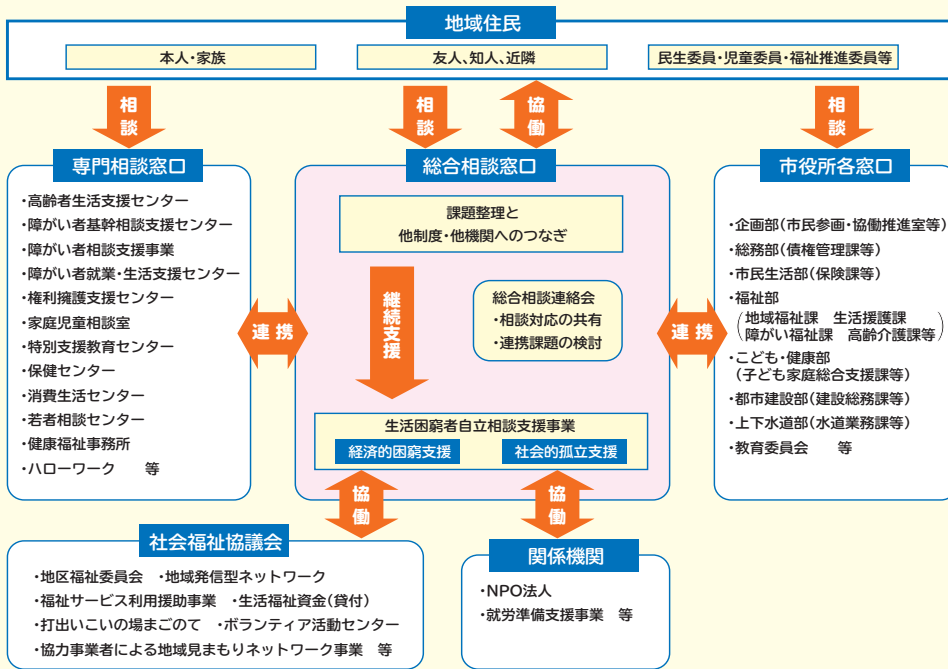
いいかわからない」「障害が疑われる世帯への支援者がいない」といった課題を解決するため、平成22年に法律的な支援も期待される「権利擁護センター」や、平成23年に行政庁内での横断的な支援のための「トータルサポート担当」を設置しました。また、どんな相談も受け止める「総合相談窓口」を設置し、運営は市社協が担っています。平成27年度からは生活困窮者自立支援制度と一体的に運営して、つなぎ先のなかった相談も継続的な支援が可能な体制となりました。

市民からの相談は民生委員やケアマネジャーのほか、市役所の健康保険・税金などさまざまな窓口に寄せられます。そのため、各窓口では対応が困難な相談を効果的に関係先へつなげられるよう、福祉分野を超えた庁内8部17課のプロジェクトで、情報共有シートの開発や事例検討を通じて共通理解を深めてきました。

さらに、小学校区では自治会や地区福祉委員会などによる「小地域福祉ブック会議」、中学校区では住民と専門職との連携を図る「福祉ネットワーク会議」などと、地域を基盤とした協働で構成される「地域発信型ネットワーク」が整備され、高齢者の見守りや災害に強いまちづくりなどに向けて住民と専門職が協働で取り組んでいます【図表3】。

令和4年度には市の地域福祉計画を

【図表3】 芦屋市の総合相談を中心とした連携体制



改定し、これらの取り組みを包括的な支援体制として重層事業に位置づけました。これまでの相談支援や地域づくり支援を通じて、「家以外での居場所がほしい」「仲間がほしい」「地域で働きたい」といったニーズがあり、これに応じた居場所などが地域に広がっていることが分かっていきます。重層事業を所管する市福祉部地域福祉課保健師の岡本ちさと氏は「こ

れまでの取り組みを庁内や市社協と振り返る中で、相談支援や地域づくりを一体的に進めるためには、社会への参加支援がポイントになることを確認しました」と語ります。今後、芦屋市では、さらに庁内連携体制の強化を進めるとともに、地域の居場所の現状分析を通じて、居場所での相談を受け止める体制整備や、団体・企業との協働による多様な居場所づくりを進め、相談・社会参加・地域づくりの一体的な展開を目指します。

県内では、令和4年度、芦屋市を含む10市町が重層事業（移行準備事業を含む）を実施しています。また、重層事業は実施せずとも、包括的な支援体制づくりにつながる動きとして、引きこもりの方へのサポートを協働で進めている次の例もあります。

包括的な支援体制づくりにつながる引きこもりの方への支援（例）

【淡路市】

- ・市社協や民児連、市人権教育研究協議会が、民生委員の協力で実施した実態調査をきっかけに、市と共に令和元年に「ひきこもり対策推進会議」を設置
- ・テキストを作成し、市民向けの啓発講座を開催
- ・一般就労が困難な方も含めた中間的就労の場づくりに向けた事業所への調査や支援の仕組みの検討も実施中

【赤穂市】

・市が民生委員の協力で実施した実態調査や、社協の心配ごと相談事業における当事者からの相談を機に、令和3年から当事者の居場所づくりや家族交流会を月1回開催
 ・税務・産業部門も含む市職員、市社協、NPO、大学なども交えて学習・検討会を実施中

包括的な支援体制づくりのポイントと課題

ここまでの取り組みに共通するのは、相談支援体制だけをどう強化するかや、重層事業をどう進めるかではなく、社会的孤立を背景にした地域生活課題に対応するために、地域における社会福祉、つまり地域福祉を進めながら包括的な支援体制をつくる視点です。

最後に、包括的な支援体制づくりのポイントや取り組み課題を3市の事例から考えます。

1. 相談を丸ごと受け止める体制をつくる

まず必要なのは、既存の制度で対応できない相談でも、断わらず、丸ごと受け止める体制を整えることです。例えば先の事例のように、地域包括支援センターが多重債務や障害が疑われる家族の困りごとをまずは受け止めたり、福祉分野以外（健康保険や税務など）の窓口でも引きこもりの方などに向き合ったりする

姿勢が相談支援の根幹となります。

2. 行政庁内の連携体制を整える

所管部署や担当者、委託先に対し、行政が既存の制度で解決できない課題を丸投げしても、困難な課題は抱え込まれ、結局は支援も行き詰まります。事例のように、各窓口の現場レベルで連携の基盤となる検討会議を設け、地域生活課題への対応を独自に制度化する仕組みを市町域で進める連携体制づくりが重要です。その上で、所管部署や担当者には、各窓口の調整・バックアップ役として庁内連携をコーディネートできるかが問われます。

また、組織改編や職員の異動を経ても庁内連携が継承されるよう、連携体制づくりを庁内・関係者の合意形成のもとで進め、地域福祉計画などへ位置づけることもポイントです。

3. 地域住民・行政・専門職などが協働で進める

社会的孤立は、社会での関係性の貧困の表れです。包括的な支援体制づくりは行政の責務ですが、相談支援体制の強化ばかりでは、地域福祉推進の主体である住民同士の関係づくりは進まず、ともすれば、行政や専門職が住民やその活動を課題の把握や解決の「手段」と誤解しかねません。

これらのことから、社会参加の支援と地域づくりは、包括的な支援体制づくりのポイントといえます。芦屋市でも体制づくりを進める過程で、「相談・社会参加・地域づくり

の一体的な展開」を念頭に地域にあるさまざまな居場所の価値を見出してきました。このように、行政や専門職がまずは地域に出向き、住民の自然な形での交流や支え合いを知ることや、小地域で住民と共に地域生活課題の解決に向けて話し合うことが必要です。また、小地域の課題を広域でも検討できる協議体やネットワークの構築、地域づくりや参加の場づくりのコーディネートを担う体制の強化も必要です。

さらに、地元でまちおこし・防災・農林水産などの分野で活動する人・団体・企業の人々と共に、地域の暮らしや未来について考える場をつくり、共にできることを探ることも重要で、社協にはその調整役が期待されます。

このように包括的な支援体制づくりは、小地域ではこれまでの住民同士の交流や支え合いをまちづくりと共に進め、これまで以上に行政や専門職、地域住民などができることをお互いに持ち寄って「のりしろ」を重ね合い、それぞれの機能や力を発揮できる体制づくりを追求することが求められます。

子育てで孤立する人、ヤングケアラーとされる子どもたちから身寄りのない高齢者まで、暮らしている誰一人をも孤立させない地域づくりに向けて、まず住民・行政・専門職などが互いに行うことは何かを話し合うこと。包括的な支援体制づくりの第一歩は県内各地で始まっています。



“笑顔”と“共生のまちづくり”につながる取り組みをレポート

共生のまちづくり

今号はページを拡充し、2月17日に神戸市産業振興センターで実施した、「共生のまちづくり」推進フォーラムの開催報告を掲載します。



“ほっとかへん”を合言葉にした共生のまちづくり

「共生のまちづくり」推進フォーラムの開催について

新型コロナウイルス発生から三年が過ぎ、地域には新たな工夫を取り入れた住民の見守り・支え合い活動や「ほっとかへんネット」（社会福祉法人連絡協議会）による制度の狭間にある生活課題への取り組みが進んでいます。

本会では、誰も取り残さない、つながりで笑顔輝く共生のまちづくりを考える場として、「共生のまちづくり」推進フォーラムを開催しました。

記念講演

「人と人がつながり、協働するまちづくり」

前半に登壇した記念講演の講師、studio-代表、関西学院大学建築学部教授の山崎亮さんは、コミュニケーションデザイナーとして全国各地でまちづくりのプロジェクト・総合計画づくりが住民参加で進むよう、地域の課題を地域の人と話し合いを重ねて解決する仕組みづくりのサポートに数

多く携わっています。

講演ではその豊富な経験の中から、地域住民とのワークショップの事例として、移転新築する病院内に住民が集える空間（ライブラリーやガーデンなど）を設けて交流を生み、健康に暮らせるコミュニケーションづくりを応援する病院として地域に根付いた事例が紹介されました。また、市の「高齢者にやさしい都市」構想に向けて、美術館の企画展を住民が考えるというユニークなプロジェクトを進め、年齢差を越えた住民同士のつながりや地域の活力が生まれた例なども紹介されました。

事例を通じて、住民のワークショップを大切にすることが主体



各地のプロジェクトを紹介しながら、みんなでまちづくりを話し合う「ワークショップ」の面白さと大切さを語る山崎さん

的な活動を生み出すこと、これまでに出会ったことのない人を含むさまざまな人とまちづくりを考える大切さなどが話されました。今後のまちづくりに向けて山崎さんは、「楽しそうだと思えることをテーマに活動し、そこから地域の幸せを考えることが地域共生社会の実現につながるのでは」と提起し、充実した講演を締めくくりました。

パネルディスカッション

「ほっとかへん」を合言葉にした、「共生のまちづくり」

後半のパネルディスカッションには、南あわじ市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット南あわじ）代表の岡本浩さん、福岡県の大牟田市社協総合生活支援課課長で、社会福祉法人地域公益活動協議会の事務局を担う馬場朋文さん、組合員や地域住民同士の協働による助け合い活動を後方支援するコープこうべ地域活動推進部の足立大さんの三名がパネリストとして登壇され、武庫川女子大学の松端克文教授のコーディネーターで実践報告とディスカッションが進みました。



南あわじ市社会福祉法人連絡協議会
(ほっとかへんネット南あわじ) 代表

岡本 和浩 さん

平成26年から市内の社会福祉法人の協働でさまざまな地域公益活動を進めてきました。

協働する上で重視するのは、誰か一人だけが良いところ取りをしないこと。社協や特定の法人ではなくみんなで活動することです。そのためにも、各施設の職員が参加する担当者会や、広報・災害・困窮者・子どもをテーマとした各分科会で具体的な活動を生み出しています。地域の子どもたちのための「ほっとネット食堂」やホームページの開設などに取り組みましたが、その都度100%は求めずにやりがいとスピード感をもって取り組むことが活動を推進するポイントになっていっていると思います。

平成27年に大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会を設立し、「生活困窮者レスキュー事業」に取り組んでいます。

各社会福祉法人の常勤職員一人あたり千円の会費を集め、「ゴミ屋敷と呼ばれる家の清掃活動」「生活困窮者への食料・日用品等支援」など、法人のみなさんと協働で実践を進めてきました。協議会の事務局を担う社協としても、レスキュー事業で重ねた実績をもとに、制度の狭間にある課題を行政に示し政策提言にもつなげてきました。次年度に向けては、社会福祉法人以外の関係団体とも協働しながら、地域に必要とされる取り組みを進めていきます。



大牟田市社会福祉協議会
大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会

馬場 明文 さん



コープこうべ 地域活動推進部 地域連携推進 統括

足立 大 さん

コープこうべでは、各地区本部や店舗などを拠点に、つながりづくり・助け合い活動に取り組んでいます。

全店舗で食品寄付を受けて善意をつなぐ「フードドライブ」、見守りを兼ねた配達を障害者が担う「買い物支援」、西宮市などで進めている「つどい場づくり」などの取り組みが広がっています。これらの活動は全て対話がベースとなっていて、令和3年からは、各地域のさまざまな関係者が集まり暮らしの課題を話し合う「地域つながるミーティング」を始めました。今後、社協や社会福祉施設、NPOなどとさらなる協働のプロジェクトが生み出せるよう、コープも地域の一員として、まちづくりに取り組みたいと思います。

私たちが目指す
「共生のまちづくり」に
向けて

松端教授のコーディネートで進んだディスカッションからは、取り組み主体や地域性が異なってもまちづくりには「協働とその前提になる対話・協議」が不可欠で、その協議には、あらたなつながりや発想を生み出す多様性も大切になることが確認できました。また、進める活動自体のやりがいや楽しさが重要になる点も見逃せないポイントとなりました。

令和5年度から、県内市区町村協には、制度の狭間にある生活課題を把握し、その解決に向けて地域のコーディネート役を担う「ほっとかへんネットワーク」が配置されます。今回のフォーラムは、配置される同ワーカールームも含めて、地域で活動する全ての人にとつての、誰一人取り残さない・取り残されない「共生のまちづくり」に向けたヒントを得られる場になりました。

あなたのまちの 社協活動

共生のまちづくりに
向けて、市町社協が
取り組むさまざまな
活動を紹介します。



今回、紹介するのは

三田市社会福祉協議会

☎079-559-5940

三田市社協

検索



地域のニーズからつながりづくりへ

三田市社協では、新型コロナウイルスなどの影響で困りごとを抱える世帯に、企業などから寄付された食料品を配布したり、お出掛けイベントなどを通じて笑顔を届けるネットワークづくりを進めています。

食料の配布を通して、集まる人たちが 元気にしたい

新型コロナウイルスの影響で地域活動が止まり、休業や失業などで生活に困りごとを抱える世帯が急増しました。そのため、地域と共にできることを始めようと、企業・事業所・個人の方々から寄せられたお米や食品の提供を通じた生活支援を行いました。

当初は物品の支援が中心でしたが、多く寄せられるようになったお米の小分け作業などのため、ボランティア・学生・引きこもりがちな方・企業など多方面に声を掛けました。また、クリスマスの時期にはみんなでサンタに扮して子どものためにお菓子の袋詰めをしました。回数を重ねた今、立場を超えて多くの人に参加し、力を合わせる場になっています。さらに、学生が社協のPR大使“さっちゃん”に仮装して子ども食堂へ食料品を届けることもあり、これは子ども食堂を体感する福祉学習の機会にもなりました。



サンタと
さっちゃんが
お福（しあわせ）を
届けます。

思いが詰まった「さっちゃんまごころ お福分けネットワーク」

食料の配布だけではなく「困ったときに相談できる関係を持ち続け、必要な支援につなぐネットワークにしたい」という考えが社協内で共有されました。市社協では、このネットワークを地域住民に知ってもらおうと、企業や事業者、市内全学校へチラシを配布し、公式LINEやクラウドファンディングも活用。社協とのつながりが希薄だった企業にも子どもたちを笑顔にしたいという思いを伝え、活動への共感から物品提供などでネットワークに参加する企業・事業所は、2団体から26団体に増えました。

取り組みを通じて「ひとり親世帯が情報交換できる場が欲しい」「下の子まで塾に行かせるのは経済的にも難しい」などの声が届き、ひとり親世帯の交流の場「ペあちる」、NPO法人と協力した無償の学習支援などの事業につながりました。また、農園と協働してひとり親世帯をいちご狩りに招待する「いちご狩りプロジェクト」、寄付されたランドセルを入学祝いとして届ける企画など、ネットワークは新たな活動や協力者を生み出しています。活動に携わる市社協の内垣亜紀美^{うちがきあきみ}さんは、「助け合いの気持ちや活動がさらに広がれば」と笑顔で語ります。

取材を
終えて

「子どもたちに笑顔を」という思いを、地域のさまざまな人・団体と共有したことで、思いは行動に変わり、それが地域の元気につながることを感じました。

活動のポイント

思いを伝えながら
活動することで、
共感もネットワークの
輪も広がる

キラリ★社会福祉法人

長田区社会福祉法人連絡協議会 (ほっとかへんネット長田)

“社会福祉法人”の安心感を生かした 地域の困りごと相談の取り組み

平成29年2月に設立した「長田区社会福祉法人連絡協議会」（以下、「ほっとかへんネット」）には、区内の26法人が参画しています。

今回は、地域住民が気軽に立ち寄れる「困りごと相談会」の取り組みを紹介します。



フードドライブでは、お米やカップ麺などの食料品の他、日用品、衣類なども配られました

コロナ禍の住民ニーズに 対応したフードドライブ活動

ほっとかへんネットでは、地域住民が抱える介護や障害、子育て、生活困窮などの困りごとに、専門性を生かして対応するため、「研修」、「広報・イベント」、「課題解決」の3つのチームに分かれて活動しています。

平成30年度には、「福祉相談会」を実施。立ち寄りやすいように炊き出しと合わせて開催し、令和元年度までの2年間で約20名の相談に応じました。

コロナの影響を受け、炊き出しを伴う福祉相談会の開催を見合わせつつも、コロナ禍で取り組める生活困窮者支援の必要性を感じ、課題解決チームを中心に、新たに食料品などの物資の支援を行うフードドライブ活動を開始しました。

この活動は、加盟法人から災害備蓄品のお米や飲料、ミルクなどの提供を受け、加盟する法人の入所施設などを通じて、物資を必要とする方々に届けるものです。令和2年度以降、実施した回数は計17回に上ります。

地域住民のよりどころとなる 困りごと相談会

フードドライブ活動に取り組む中、生活に困窮する方へダイレクトに食料支援を行うことは難しく、自分たちが地域に向いてニーズをキャッチしていく重要性を改めて確認しました。

令和4年度、広報・イベントチームを中心に、フードドライブ活動で培った食料支援と相談会を組み合わせ、住民になじみのある保育や障害者施設を会場に、小地域での「困りごと相談会」として再開しました。

事前に地域の高齢者が集う喫茶店などにチラシを配布したり、保育施設の秋祭りに合わせて開催したりと工夫した結果、開催当日は、食料配布を通じて90名を超える方々と出会い、話を伺う機会を得ることができました。

困りごと相談会では高齢者の生活相談や子どもの食育に関する相談などが寄せられ、専門職が悩みに寄り添い助言しました。参加者からは、「身近な施設だから安心して参加できた。また何か困ったら相談しようと思う」との声が寄せられました。

会場では、高齢・障害・保育・児童など各分野の専門職約15名が、そろいのビブスを着用し、マスクと一緒に相談窓口のある施設一覧やほっとかへんネットの活動内容を記載したチラシも配布。「困った時のほっとかへんネット」の存在を地域の方々にアピールしました。

ほっとかへんネットの事務局は、「1人でも多くの人に身近なところに相談できる場があるということを知ってほしい。引き続き、法人間の連携を強化し、住民の生活を支えていきたい」と話します。各施設に相談窓口の目印となるのぼりを設置し、今後も住民に寄り添う活動を展開しようとチームで協議を進めています。



身近な場所で相談会を開くことで、住民が通りすがりに立ち寄り相談につながりました

ほっとかへんネット長田
事務局・長田区社会福祉協議会
TEL: 078-1579-1231

「よさこい交流」は、
親にとって情報交換の場
にもなります

県内に拠点を置いて活動する自助グループを紹介します

セルフヘルプグループの

リアル



たつの市手をつなぐ育成会

たつの市の知的障害・発達障害の子どもを持つ親の会「たつの市手をつなぐ育成会」。行政や教育機関との連携を図りながら、親同士の交流に力を入れています。会長の矢野一隆さんにお話を伺いました。

グループの概要

名称	たつの市手をつなぐ育成会
よさこい交流	月1回 第2日曜日 10:00~11:00 新宮スポーツセンター（Zoom配信あり）
茶話会	年2~3回 平日午前 たつの市福祉会館
Facebook	https://www.facebook.com/Tatsunoikusei/ne.jp
ホームページ	公益財団法人 兵庫県手をつなぐ育成会 http://www.tsunaguiku.sakura.ne.jp/index.html



手袋をはめた状態でお札を数え、手先の動きにくい感覚を体験する様子。
「疑似体験」では、手先の動かしにくさやコミュニケーションのもどかしさなどを体験します

Q1. グループ発足のきっかけは

A. 手をつなぐ育成会は、昭和27年に、知的障害の子どもを持つ3人のお母さんが、障害のある子の幸せを願い立ち上げました。県組織も昭和31年に設立され、今では県内全ての市町で組織化されています。

たつの市では、昭和36年に行政からの呼びかけに応じる形で発足しました。事務局を行政が担っていることもあり、行政はもちろん学校との連携も取りやすいです。

Q2. 現在どのような活動に力を入れていますか

A. 保護者が4~5人ずつのグループに分かれて自由におしゃべりをする「茶話会」の場を大切にしています。愚痴をいっぱい言ってもいいし、我が子のおもしろエピソードを話してもいい。あえてテーマを決めず、気兼ねなく話をしてもらうことで、思わず本音が出たり、気持ちの整理ができます。会員ではない保護者や学校関係者にも参加してもらい、つながりの輪が広がっています。

また、子どもから大人まで皆が気軽に参加できる「よさこい交流」を毎月行っています。その他にさまざまなジャンルの曲を練習し、元気に楽しく踊ります。年2回程度、レクリエーションやイベントに参加しています。

Q3. 社会に望むことや目標は何ですか

A. 目の不自由な人には白い杖、脚の不自由な人には車いす、それぞれに支援ツールがありますが、知的障害を持つ人が社会の中で安心して暮らすためには、「障害に理解のある人」が増えることが必要です。

この世界には、障害を持つ人、これから障害を持つかもしれない人、この2通りしかありません。知的障害を持つ人が身近にいることに気付き、他人事ではないと感じてもらうきっかけになればと、育成会の会員や行政、市民有志で、啓発グループ「ぴーす&ピース」を結成し、自治会や学校で「知的・発達障害疑似体験」を行っています。

これからも、何でも気軽に相談してもらえる「社会資源」になれるよう、育成会の活動を続けていきたいです。

私の物語

このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・思いを紹介していきます。

私のモットー

迷ったときは、
ワクワクする方へ！

「福祉」のイメージを根底からひっくり返す！

ひらばやし けい

平林 景 さん (尼崎市)

株式会社とっとリンク 代表取締役

一般社団法人日本障がい者ファッション協会(JPFA) 代表理事

Personal History

平成26年 美容学校の教員として在籍していた学校法人三幸学園で、東京未来大学こどもみらい園を立ち上げ
平成28年 独立。株式会社とっとリンクを設立
平成29年 放課後等デイサービスみらい教室を開設
令和元年 一般社団法人日本障がい者ファッション協会を設立し、同代表理事に就任
令和4年 パリ・コレクションにファッションブランドbottom' all を出展



「通いたい」と思える施設を

教員をしていた頃、身近な人が発達障害であることがわかり、全国の施設を回りました。どこも暗く社会から蓋をされた空間のように感じました。そこで、「通いたい」という気持ちになるような、むしろ通うことに優越感さえ抱くような、他にはない場所を自分の手でつくろうと決意しました。

美容師の経験でおしゃれが持つ力を知っていたので、「おしゃれな放課後デイサービス」という発想になったのだと思います。視覚から受ける影響は非常に大きく、その感覚的な力は、時に価値観・既成概念を覆します。このファッションの面白さを福祉と組み合わせ、業界のイメージを刷新したいと考えています。昨年のパリコレ進出もその延長線上に過ぎません。

共感し合える仲間と一緒に

自分一人で行えることは限られるので、人を周りに集めるようにしています。ただ、「やってあげる」という関係性ではなく、共感して集まった仲間がそれぞれの強みを発揮して活躍する、フラットなチー

ムです。凸凹があるのは当たり前なので、ミスは責めません。これは放課後等デイサービス「みらい教室」の運営にも通じますが、自分ができること・できないことを知ることが大切です。できないことは背伸びしなくとも誰かに頼ればいい。スキルの有無より、一緒にワクワクできる仲間を見つけることが圧倒的に大事です。

また、現代はSNSを通じて発信したり、つながったりと、何者でもない人が世の中を動かせる時代です。最近では、福祉関係の経営者のインフルエンサーを増やしたいと思っています。たくさんの方が波及すれば、一人一人にとっての「当たり前」が変わるはず。福祉業界を変えるために、発信力を持った経営者、共感し合う仲間を増やしたいです。

「ボーダーレス」な社会を目指して

社会には、性、人種、障害など多くの「ボーダー」が存在しますが、それをいかに壊せるかを考えています。違いを受け入れられずとも、反発はしなくていいはず。まずは「そういうこともある



車イスのモデルがランウェイを歩いたのはパリコレ史上初！挑戦の様子はSNSなどでも発信中です
<https://twitter.com/KeiHirabayashi>



「みらい教室」は、尼崎市内に4教室を展開。マンツーマンで一人一人の「凸」を伸ばします

んだ」と受け止め、納得できれば受け入れたらいい。「ボーダーレス」とはそういうことだと思っています。その実現には「今」を変えないといけません。目の前の課題からさえも目をそらす、「ダサイ大人」にはなりたくない。身近なところからできることから始めればいと思います。「福祉も色々できる」ということを、先駆者として若い世代に示していきたいですね。

「福祉で働く価値を問う」
セミナーを開催

2月16日、県社協が事務局を担う、県社会福祉法人経営者協議会では、「近畿ブロックセミナー兵庫大会」を開催し、オンライン同時配信で近畿府県から242名が参加しました。

植草学園大学野澤和弘教授の講演では、大学のゼミナールで寝たきりのALS患者と出会い交流したことで、価値観の転換を迫られ福祉の道に進んだ東大生の話をご紹介いただきました。「これからの人材確保は単なる労働力不足の穴埋めではない。人間として大切なものについて考え、自らをかけるべき仕事は何か、リーダーは、福祉の現場は、これまでの価値観を覆すほどの機会を提供できる職場であることを語らなければならぬ」と話され、現場の魅力や価値について考える機会となりました。

続いて、(株)people first代表取締役八木洋介氏より「人事」という視点で講演をいただきました。

八木氏は(株)LIXIL執行役員社長などを歴任された人事のプロで

あり、リーダーに必要な「力量」などについて、自身の体験から語っていただきました。

「組織の活力を上げる上司になるには、永遠のきれいなことおじさん」にならなくてはならないなど、印象に残る言葉でリーダー論を語られ、参加者も熱心に聞き入りました。

参加者からは「福祉の魅力を世間にどう伝えるか考える機会となった」「自分の思いや軸を職員にしっかりと語っていききたい」などの感想が寄せられ、人材育成の場面や組織変革でも、魅力あるリーダーが必要だと強く示唆されたセミナーとなりました。



野澤氏（写真右）からは、福祉の魅力や価値を発信する大切さを、八木氏（写真左）からは、人事の視点からリーダーのあり方について講演いただきました

寄付のお礼

今号では、1月以降に温かな善意をお寄せいただいた団体を紹介いたします。

- 六甲有馬ヒルクライムフェスタ実行委員会様より、善意銀行（児童福祉）に寄付
- アフラック近畿法人アツシエイツ会様より、善意銀行（高齢者福祉）に寄付

温かな善意に対し、ここに感謝申し上げます。

トルコ地震の被災者に
温かい支援を

トルコ共和国で発生した地震が甚大な被害をもたらしています。県社協では、県やその他の団体とともに「令和5年トルコ地震兵庫県義援金募集委員会」に参画し、義援金を募集しています。

詳細は、県ホームページをご覧ください。

https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk41/turkeyearthquake.html



～安心してボランティア活動をするために～ ボランティア・市民活動災害共済のご案内



年間掛金
1名につき
500円

傷害給付

ボランティア活動中の事故によるケガの補償
(通院1日4,200円・入院1日9,000円)

賠償責任給付

ボランティア活動中の事故により第三者の身体または財物に対する損害を与えた際の補償(5億円限度)

死亡見舞金

傷害給付の対象とならない事由で亡くなられた際に給付(10万円)

お問い合わせ・加入申し込み先/最寄りの市区町社会福祉協議会のボランティアセンター
実施・運営主体/兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部 TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
取扱代理店/株式会社 兵庫福祉保険サービス TEL 078-735-0166 FAX 078-735-1890
引受保険会社/三井住友海上火災保険株式会社 TEL 078-331-8502

※所定の申込書と掛金を受付した翌日から、2024年3月31日までが加入期間となります。 ※2023年度補償内容です。
※新年度の加入申し込みは、2023年3月から受付を開始します。